



第123号
野毛山幼稚園
横浜市西区老松町30
TEL.045-231-0150

見えないものに目を注ぐ 子どもは子どもを生きている

野毛山キリストの教会牧師
野毛山幼稚園園長 奈良昌人

パンデミック2年目の中、第1学期の終業を無事に迎えることができました。入園より3ヵ月半が経ち、このわずかの期間に子どもたちは一人ひとりそのらしく成長しています。昨年度は4月から5月が休園となり、6月から分散登園だったため、子どもたちの集団ならでの成長が心配されました。子どもは子どもの中で育つのですから、幼稚園生活には他では得られない多くのことがあり、子どもの成長を助けます。それまで当たり前のように過ごして来た第1学期、貴重な日々であることを改めて実感しています。

さて、野毛山幼稚園は1951年に神奈川県公認の私立幼稚園として野毛山の地に誕生し、この7月に創立71年を迎え、つい先日、学年毎に創立記念感謝礼拝を献げることができましたことは、真に感謝でした。当園の建学の精神は、聖書に記されているイエス・キリストの子ども

観、「子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである」(マルコ10・14以下)のみ言葉によります。この聖句を心に刻み71年間、キリスト教保育を行ってきました。このたび、イラストレーターのみなみなみさんにこの聖句のポストカードを作っていただき、皆さんに記念品としてお渡しできましたこともうれしく思います(聖句は並行箇所のみ19・14から)。「神の国(天の国)はこのような者たちのものである。」とは、目の前の幼な子という存在はもろいですが、幼な子の心持ちのことを言っています。子どもはおとなの誰かに依存しなくては生きていくことができません。そのように、目に見えない神さまに信頼して生きることが大切であることを言われたのです。そのことをベースに安心感が生まれ、自己肯定感やどんなことにも対応できるしなやかな心が育まれていくのです。キリスト教主義の幼稚園はどこか優しさが漂っているという声を実習生などから聞くことがあります。それは、子どもも保育者も神の恵みと愛のもとで生かされ、共に育つことを喜びとする園の思いが優しさや温かさを醸し出しているからではないでしょうか。聖書に、「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。」(コリントの信徒への手紙二 4章18節)というみ言葉があります。サン・テグジュペリの『星の王子さま』では目に見えないんだよと言いますが、大切なこと、物事の本質は目に見えない

のです。神さまは目に見えませんが確かにおられます。私たちも心の目をもって神さまの眼差しを感じながら子どもの成長にとって何が大切なことか、神さまの心はどこにあるのかを問いつつ子どもたちの成長を喜ぶことを大切にしていきたいと考えます。つまり、目に見えるものを確認し、目に見えないものをもしっかりと見ていきたいのです。

日本の保育学者津守真の著書『保育の現在』で、「子どもが目に見える行動をとるのは、その行動をする以前に、目に見えない部分の思いがあり、私たちに求められているのは、その行動に対して応答することではなくて、目に見えない部分の思いに対して応答することではないか」と言っています。子どもは、子どもを生きているのですから、私たちおとなは子どもの目に見えないことに目を注ぎ、「神さまがその子の育ちの時間を備えて下さるまで」、祈り、かわり、待ち望むことを大切にして子どもと共に成長していきましよう。目に見えないものに世界中が翻弄されている今、目に見えないものにこそ目を注ぐ目を養って参りましょう。

